

四日市駅周辺で10日連続人出増

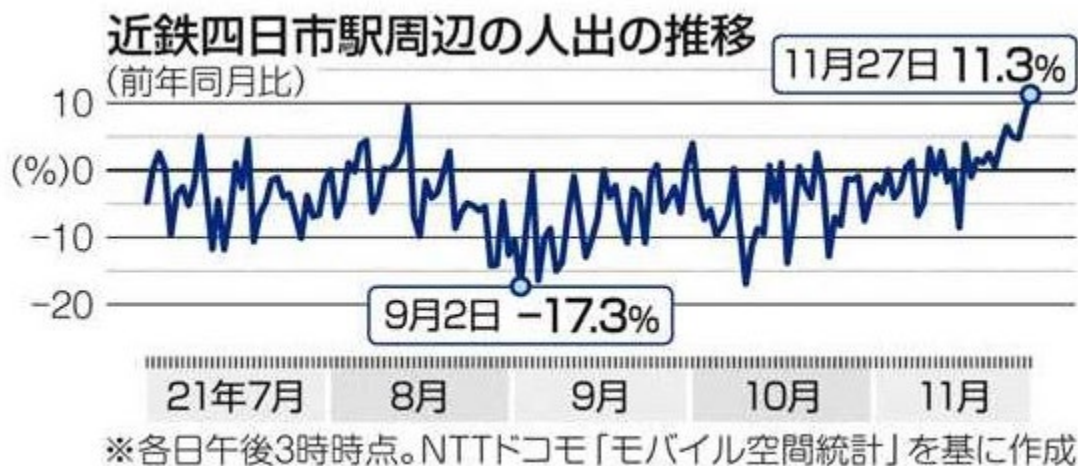
十月に新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言が解除され、新規感染者数が落ち着きを見せる中、各地で人々の動きが活発になっている。NTTドコモの「モバイル空間統計」によると、商業施設や飲食店が集積する近鉄四日市駅周辺エリアで、土曜日だった十一月二十七日午後三時の人出は、前年同月の休日平均と比較して11.3%増え、十日連続で増加した。

有数の観光地である伊勢神宮の参拝者数も増加している。伊勢市が発表した十月の参拝者数は約三十五万人で、政府の観光支援事業「Go To トラベル」などで上向いた前年には届かないものの、夏休みを含む八月より九万人、緊急事態宣言中の九月より二十万人以上多くなった。

県内企業の業況にも変化が出ている。食料品メーカーや卸売業では十月以降、飲食店や宿泊施設向けの売り上げが回復している企業も。宿泊やレジャーでは県外客や修学旅行生らが増え、十一月の予約件数が前年の倍となった施設もある。衣料品販売店では婦人服が売れ始めたとの声もある。

今後の暮らし向きなどを捉えた総務省の十月の消費者態度指数は、全国、東海ともに上向きで、消費マインドの持ち直しがうかがえる。感染防止を徹底しつつ、早期ににぎわいが戻ることを望む。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む (百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2021年12月2日